

(別記)

令和5年度長岡京市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、水田の全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約60%です。特産品として、なす、花菜、ミディトマト「ガラシャの瞳」などの栽培を奨励しています。また、環境負荷低減に取り組む農業者（旧エコファーマー）を支援し、特別栽培農産物の推進を図っています。

しかしながら、農家一戸当たりの水田面積は約23aと小さく、都市化による農地の減少も進んでいる中、それ以上に農家の高齢化や後継者不足による担い手の減少が進み、担い手への農地集積が課題となっています。

その他、麦、大豆等の土地利用型農業については、圃場整備もされておらず圃場区画も小さいことから、生産面、品質面ともに困難な課題が多くあります。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本市の水田は、一戸当たりの水田面積が少なく、市街化区域の水田面積が約40%を占めていることもあり、生産規模の拡大を図ることは非常に難しい圃場条件となっています。そのような地域の実情に応じて、地域輪作農法の取り入れや、花菜では早生、中生、晩生の品種の育成及び活用などに取組み、地域振興作物としては、花菜の他、なす、ミディトマト「ガラシャの瞳」などの栽培を推進しています。

また、ソルゴー障壁を用いた環境にやさしい農法による栽培や、京都こだわり栽培指針に基づいた栽培による京のブランド製品の指定など、付加価値の向上への取組みを行っています。

今後も、地域の実情に応じた取組みや付加価値の向上への取組みを継続していきます。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本市では、高齢化や後継者不足による担い手の不足や、農地の集積・集約化が進んでいない状況となっていますが、地域輪作農法を用いたなすや水稻の裏作として栽培される花菜が地域振興作物となっていることから、それらを生産していくための水田面積を維持し、水田の有効活用を行います。

また、農業委員や農家組合、行政職員による農地を巡回し、水田において耕作放棄を発生させないよう、継続して取組みます。

地域輪作農法への取組みや裏作の作付により、水田の活用が行われているため、需要に応じた作物の栽培に対する支援を行いながら、生産者の畑地化への意向に基づき、畑地化支援も進めていきます。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

本市は一戸当たりの水田面積が約23aと少なく、生産緑地を含む市街化区域の水田面積が約40%を占め、改廃が進む状況からすると、生産規模の拡大を図ることは非常に難しく、農地の集積も困難です。また、水田面積が少ないため生産コストが高く、作業受委託が進んでいますが、稲作から得られる所得は低水準となっています。

一方で本市の人口は約8万人ですが、市外からも通勤や通学、観光等で多くの人が訪れており、米の潜在需要は大きいと見込まれます。

そのような中で、消費者への直接販売や、インショップ、直売所、企業の食堂などに対応した生産と安定取引の推進を図ります。

また、全国的に主食用米を取り巻く環境は日々変化しており、京都府南部地域に適した品種の情報収集に努めていきます。

(2) 非主食用米

新市場開拓用米

生産者の意向に基づき、新市場開拓米の生産に向けた取組みを推進します。

(3) 高収益作物

水田転作作物として様々な作物の作付けが行われており、特に、なす、花菜、ミニトマト「ガラシャの瞳」を地域振興作物として、良質な特産品の生産振興を図ります。

5 作物ごとの作付予定面積等

別紙のとおり

6 課題解決に向けた取組及び目標

別紙のとおり

7 産地交付金の活用方法の概要

別紙のとおり

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。